

第6回 生物多様性神戸プラン推進委員会 議事録

- 1 開催日時：平成30年7月17日(火) 15時～17時
- 2 開催場所：兵庫運河（神戸市兵庫区材木町付近）
3. 出席者：武田委員、島本委員、長岡委員、橋本委員、安井委員、斉藤委員
4. 「兵庫運河の自然を再生するプロジェクト」の活動について

●兵庫運河の自然を再生するプロジェクト（以下「プロジェクト」と表記。）

「プロジェクト」は、兵庫漁業協同組合、兵庫運河を美しくする会、兵庫運河真珠貝プロジェクト、兵庫・水辺ネットワーク、神戸市立浜山小学校による協働事業である。平成25年より活動している。

現在、兵庫運河では天然アサリが育っている。また、舞子から移植したアマモも育っている。里山管理で排出された雑木を粗朶沈床（海上保安部の許可を受け実験設置）とし、コウイカ、アカニシ等の産卵も確認できた。市みなと総局に依頼し、3年前に兵庫運河に砂を入れ、浜を整備してもらった。今、砂浜には、ホソウミニナ、ウミニナ、クチバガイ、スガイ、イシダタミ等、希少種も含め、多くの種類の貝が生息している。神戸でこれほど多くの種類の貝が生息している浜は、他にない（なお西宮貝類館の話ではウミニナの生息確認は阪神間では兵庫運河のみとのことである。）。さらに今年11～12月、みなと総局の環境再生整備により、砂浜の面積が増加する予定である。

兵庫運河が魚介類の「ゆりかごの海」の1つとなり、大阪湾の再生につなげられたらと考えている。将来的には、兵庫運河を天然アサリの潮干狩りができるような浜にし、漁協の収益にもつながるような仕組みを構築できればよいと考えている。

現在の「神戸港港湾計画」では、兵庫運河は「神戸港内で水路」となっている。そのため、海上保安部の指導で12月には粗朶沈床を引き上げなければならない等の制約がある。このため、この活動エリアを「自然的環境を整備又は保全する区域」に変更するよう、市みなと総局に申し入れていきたい。



《兵庫運河にて、団体概要の説明》

●橋本委員

市みなと総局が浜の整備をしたとのことであるが、生物様多様性の保全を目的としたものか。

●プロジェクト

はい。活動を続けているうちに、みなと総局や海上保安庁にも、プロジェクトの意義が理解されてきた。

●橋本委員

ご苦労もあったのでは。

●プロジェクト

かつて、兵庫運河は、ヘドロでメタンガスの発生する汚い海で、何も生きものがいなかった時期があった。近年、水質が良くなり、きれいな海になった。生きものの生育には、窒素、リンなど栄養分だけでなく、多くの生きものの食物連鎖があることが重要である。兵庫運河で本格的に生物調査を行ったところ、生き物が繁殖していることが分かったので、このような生物のつながりを大事にするため、自分達で兵庫運河の自然を蘇らそうと、活動が始まった。

●橋本委員

漁協組合の皆さんは活動に賛同されていますか。

●プロジェクト

はい。近年、漁獲量が少なくなっていることが気になっていた時にプロジェクトの話が持ち上がった。兵庫運河を再生し、魚介類が産卵して育つ、豊かな里海にすることを考えている。二見の水産試験場もこちらの成果を認めている。

このプロジェクトは、平成 29 年 10 月に福岡で開催された水産庁の「全国豊かな海づくり大会」で水産庁長官賞をいただいた。国の方でも兵庫運河の活動を重要視している。

●橋本委員

受賞により、応援してくださる人も更に増えますね。

●プロジェクト

この運河は、東西が開いており、潮が動くので、生物の生育に適している。神戸で最も汚かった海を、神戸一の里海にしたいと考えている。

4年前から、砂浜を子ども達の環境教育の場として活用し、地元の浜山小学校3年生が春と秋にアサリの調査を行っている。春にアサリの計量、計測を行って再び運河に入れ、秋にどの程度成長したか確認している。

●長岡委員

環境学習の場となることでイメージアップにもつながりますね。子ども達にとって、食卓の食べ物が、どのように獲れ、漁師にどのような苦労があるのか等、わかりにくいのが、身近にアサリがとれることで、生態系の循環の話がわかりやすいものになる。

●武田委員

アオサは繁殖しないか。

●プロジェクト

冬場は、アオサが繁殖している。

●武田委員

プロジェクトに企業はどの程度参加しているのか。

●プロジェクト

42社である。

●橋本委員

企業はどのような活動をされているのか。

●プロジェクト

主に地域の美化（運河周辺の清掃活動）である。運河に油が流れたりしていないか確認したりしている。漁協と企業が一緒に活動している事例は、このプロジェクトだけではないか。

●橋本委員

人と人のつながりで活動が大きく広がっているのですね。

●プロジェクト

漁協・地域住民・企業・学校が協働し活動していることが特徴である。協議することにより次の世代を育てるにはどうしたらいいか、考えていける。

●橋本委員

市は今後どのような展開を考えているのか。どのように活動を支えていくのか。

●斉藤委員

環境局としては、活動が円滑に進むようサポートし、みなと総局等、関係部署とのつながりも支援していきたい。

●橋本委員

生物調査は、水中の調査など専門家に依頼するものと、市民団体に任せるものというように、分担すれば良いのではないか。

●プロジェクト

「兵庫運河の生きものたち」の図鑑作成や、ライフジャケットの購入に、環境局の補助制度を活用した。安全面にも配慮しながら、活動を続けていきたい。

浜山小学校とのコラボを3年続け、活動がやっと落ち着いてきた。地域を交えて、5年、10年と活動を続けるうちに、活動が安定すると思われる。漁協も忙しい漁の合間をぬって、この活動に参加しており、観光漁業、つまり収益にもつながるような活動ができれば良いと考えている。

市には、活動が長続きするような仕組みを考えることに協力いただきたい。



《兵庫運河》



《兵庫運河の生きもの》